

目 次

SPKの企業文化	1
オーナーのみなさまへ	2
営業の報告	3
経営方針と見通し	4
中間連結貸借対照表	5
中間連結損益計算書／中間連結株主資本等変動計算書	7
中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
中間単体貸借対照表	9
中間単体損益計算書／中間単体株主資本等変動計算書	11
中間単体キャッシュ・フロー計算書	12
主要経営指標の推移	13
株式の状況	16
株価の推移／役員	17
会社概要／当社グループの主要な事業所／株主メモ	18

■ オーナーのみなさまへ

SPKオーナーのみなさまには、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

第137期中間期（平成19年4月1日から平成19年9月30日まで）の営業のご報告にあたり、日頃のご理解・ご支援に対し心から感謝申し上げます。

さて、当中間期の連結決算業績は、前年同期比で申し上げますと、売上高は1.0%の増収、営業利益は2.7%減、経常利益は2.9%減、中間純利益は5.3%の減益となりました。

オーナーのみなさまへの配当につきましては、株主重視の方針にもとづき、中間配当は1円増配の21円とさせていただきます。

下期も国内外厳しい環境が続きますが、仕事の質を高め、マーケットを深く耕すという地道な営業活動を根気よく積み重ねて「持続する収益力」を強化してまいります。

なにとぞ、今後とも一層のご理解とご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年12月

代表取締役会長 中嶋 功
代表取締役兼社長執行役員 轟 富和



会長 中嶋 功



社長 轟 富和

■ SPKの企業文化

<経営理念>

誠実 (Sincerity) に生き
情熱 (Passion) を持って仕事をし
親切 (Kindness) な対応ができる
企業人の集団

■ 営業の報告

当中間期の概況

当中間期（連結）の売上高は、国内本部が前年同期を下回りましたが、海外本部が好調に推移し、工機本部も堅調であり、前年同期比1.0%の増収となりました。利益面では海外本部と工機本部が貢献しましたが、国内本部の価格競争激化による利益率低下が影響し、営業利益は2.7%の減益となりました。

国内本部は、顧客基盤である自動車整備の総需要が一段と成熟化している環境下で、会社創立90周年記念セールを前面に押し立て、基幹商品である補修部品の販路拡大や新商材の販売に地道に取り組ましましたが、市場の落ち込みをカバーするに至りませんでした。その結果、4.2%の減収となりました。

海外本部は、海外での日本車の保有台数の増加に支えられて、売上ウエイトの高いアジアを始め、中近東・アフリカ、欧州、中南米で順調に売上を伸ばすことができました。その結果、9.2%の増収となりました。

工機本部は、納入主要業界である建機およびフォークリフトの主要大手顧客の好調な生産販売に支えられ、堅調に推移しました。その結果、3.3%の増収となりました。

当社グループ経営データ

①当社グループの業績

(単位：百万円、%)

	当中間期	前中間期	対前年同期比
売上高	16,146	15,985	101.0
営業利益	684	704	97.3
経常利益	738	761	97.1
中間純利益	415	438	94.7

②当社グループの売上高データ

(単位：百万円、%)

	当中間期	前中間期	対前年同期比
国内本部	8,534	8,908	95.8
海外本部	5,584	5,114	109.2
工機本部	2,027	1,962	103.3
売上高	16,146	15,985	101.0

■ 経営方針と見通し

社会的貢献を維持するために、「豊かに持続すること」これがSPKの経営目的です。

<経営の基本方針>

- ① 企業の変革と経営の先進性を追求します。
- ② 全社員に成長するチャンスとステージを提供します。
- ③ 「持続する収益力」の維持・強化をめざします。
- ④ お取引先の満足と社会への貢献を追求します。
- ⑤ 株主、利益配分および情報開示を重視します。

収益体質は着実に強化されてきており、通期での増益の維持に邁進してまいります。上期の1円増配に続いて、下期も2円増配し、通期で3円増配の43円配当をし、10期連続の増配を実現していきたいと考えております。

通期の業績見通し

国内本部は引き続き厳しい事業環境にありますが、90周年記念セールを積極的に展開し、本業で販路拡大を図る地道な営業活動を徹底してまいります。また、上期は急激なユーロ高による利益率の低下に見舞われた輸入車部品価格の正常化を図ると共に、好調に推移しているフォークリフト用補修部品の販売体制の強化に注力して、収益重視の政策を追求してまいります。海外本部は全世界で増加している日本車の保有台数をベースにして、それに伴う補修部品需要をそれぞれの地域で拡販策を立てて増販を図ります。工機本部は依然好調に推移している足元の業績をしっかり維持します。

通期連結業績の見通しは、上期業績を下期で修正可能な誤差の範囲内とし、期首の発表通り売上高335億円、経常利益17億円を達成してまいります。

<当社グループの業績見通し>

(単位：百万円、%)

	通期見通し	前期実績	対前期比
売上高	33,500	32,218	104.0
営業利益	1,580	1,434	110.1
経常利益	1,700	1,554	109.3
当期純利益	980	889	110.2

■ 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前 期
	平成19年9月30日現在	平成19年3月31日現在
資産の部		
流動資産	12,653	12,532
現金及び預金	2,765	2,598
受取手形及び売掛金	7,108	7,113
たな卸資産	2,289	2,330
繰延税金資産	124	150
その他	371	349
貸倒引当金	△ 5	△ 11
固定資産	1,627	1,671
有形固定資産	755	761
建物及び構築物	106	112
土地	619	619
その他	29	29
無形固定資産	122	157
のれん	8	16
ソフトウェア	104	131
その他	10	10
投資その他の資産	749	752
投資有価証券	423	404
繰延税金資産	123	134
その他	209	215
貸倒引当金	△ 6	△ 2
資産合計	14,281	14,203

科 目	当中間期	前 期
	平成19年9月30日現在	平成19年3月31日現在
負債の部		
流動負債	4,061	4,298
支払手形及び買掛金	3,152	3,307
未払法人税等	291	322
その他	617	668
固定負債	612	613
退職給付引当金	482	491
預り保証金	44	37
長期未払金	84	84
負債合計	4,673	4,912
純資産の部		
株主資本	9,447	9,141
資本金	898	898
資本剰余金	961	961
利益剰余金	7,921	7,615
自己株式	△ 333	△ 333
評価・換算差額等	160	149
その他有価証券評価差額金	159	148
繰延ヘッジ損益	0	0
純資産合計	9,607	9,291
負債及び純資産合計	14,281	14,203

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。